

令和5年度 墨田区立中和小学校経営方針

墨田区立中和小学校
校長 影山 祥仁

「歴史と伝統を引き継ぎ、さらなる発展へ向けて」

1 経営目標

- 子供を第一に考え（子供ファースト）、一人一人に寄り添う指導
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に迫る授業づくり（校内研究）
- コミュニケーション（同僚性）を高める場の工夫
- 失敗しても何度でも立ち直る力（レジリエンス）を育む指導
- 子供が安心して通うことのできる安全な学校づくり

2 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広く国際社会や地域社会において、信頼と尊敬を得られる人間の育成を目指し、健康で自他の人格を重んじ、創造性に富み実践力のある児童を育成するために、次の目標を設定する。

- よく考えて工夫する子ども（本年度の重点目標）
- 自主性に富み責任感の強い子ども
- 心ゆたかで思いやりのある子ども
- 健康で明るい子ども

3 学校経営の基本理念

中和小学校は、開校149周年を迎え、これまでの教育活動のよさや成果を継承するとともに、墨田区教育委員会の教育目標や基本方針を踏まえ、時代や社会の変化に対応できる新しい学校教育の創造に努める。

また、学習指導要領の理念を踏まえ、墨田区教育委員会の捉えた教育課題に対応しながら、「知」・「徳」・「体」の調和のとれた豊かな人間性を育み、将来どのような環境に置かれても、周りの人と協働しながら目の前の課題に立ち向かい、よりよい生き方を選択できる「生きる力」を育むことができる組織的で協働的な教育活動が展開される学校経営を目指す。

【目指す学校像】

教育目標達成のため、全教職員が家庭や地域との連携を図りながら、校外の教育力を効果的に活用し、質の高い教育活動を意図的・計画的・組織的に実施できる学校を目指す。

- ・児童にとって、安心・安全が確保され、しっかり学び、元気に遊べる学校
- ・児童のために日々自己研鑽に邁進する教職員集団の学校
- ・児童や教職員はもちろん、保護者や地域が誇れる学校

【目指す児童像】

自らの生き方を考え、自らの力で将来を切り開くために必要な学力、自他を大切にする優しさやレジリエンス、たくましい体と強い意志を育てていく。

- ・「知」・「徳」・「体」の調和のとれた心身ともに健康な児童
- ・習得した知識や技能を活用し、他者と協働しながら課題解決に取り組む児童
- ・問題を自分事としてとらえ、それを解決していく児童
- ・他者を思いやる行動ができ、すすんで共生・共助に努める児童

【目指す教職員像】

保護者や地域の期待に応え、学校組織の一員としての自覚と責任をもち、教育目標の実現と教育課程の計画的実践に全力で取り組む。また、児童のよさや可能性を最大限に引き出し、伸長し、個々の将来につなげていくために、組織的に取り組める教職員集団を目指す。そのために、児童や保護者、地域の方々とのコミュニケーションを大切にする。何より、教員同士の同僚性を高め、教職員一丸となって教育活動を行う。

- ・教育のプロとしての使命感と情熱をもつ
- ・豊かな人間性と人権感覚をもつ
- ・常に自己研鑽に励み、向上心をもつ
- ・同僚性を高めるミドルリーダーのリーダーシップ

4 学校経営の基本方針

(1) 生涯学習の基盤となる確かな学力を身に付ける

- ・きめ細やかな指導を行い、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。
→個に応じた指導、少人数指導、学習補習教室、ICT機器の活用
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
→効果的な指導方法の開発（タブレット学習等）に向け、実践的な研究や研修を行う。

(2) 自他の命を尊重するとともに、思いやりと規範意識を育てる

- ・全ての教育活動で、かけがえのない命について学ばせる。
- ・児童の多様な課題に対し、個人で対応するのではなく、学年等複数で対応する。
- ・互いに認め合い、ともに学び合う学校を目指す。

(3) 新しい教育活動とライフ・ワーク・バランスの推進

- ・計画的・組織的に教育活動を実践し、教育目標の達成を目指す。
- ・teamsを活用し、情報共有を図り、効率的に会議等を行うことで、「学校における働き方改革推進プラン」の趣旨に基づいたライフ・ワーク・バランスを推奨する。

(4) 自分に誇りをもち、社会の形成に参画する基礎を培う教育の推進

- ・学校や地域の教育環境を積極的に活用し、「歴史と文化」「環境問題」「国際社会」等への関心と理解を深め、実践する教育を推進する。
- ・日本の伝統文化に関心をもち、外国語活動を通して豊かな国際感覚を養う。

5 教育目標実現のための方策

(1) 中・長期的目標と方策

墨田区教育振興基本計画の目標を大切にしながら、体験活動を基盤に置き、児童に「社会的自立の基礎」を身に付けさせていく。

【落ち着いた学校生活】

- ① 学校を安全な教育の場とし、安心して学ぶことのできる教育環境の中で心身ともに健康な児童を育む。
- ② 全員で全ての児童を育てていくというチームとしての意識をもって指導にあたる。

【授業の改善と充実】

- ① 教師の授業力を高め、ICT 機器も活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ② 自力解決学習や体験的学習など、学習活動の充実を図り、児童の学びを深める。

【教育公務員としての自覚と誇り】

- ① サービスの厳正に努め、奉仕者としての自覚をもち、職務を全うする。
- ② 人権尊重の精神を基調に、体罰やいじめのない学校づくりに努める。
- ③ 教職員のコミュニケーションを大切に、働きやすい環境をつくる。
- ④ ライフ・ワーク・バランスを意識し、ICT 機器を活用し、会議の精選を行う。

【保護者や地域との協働】

- ① 家庭や地域との連携を図り、児童が過ごしやすい環境をつくる。
- ② 地域教材の開発や地域人材の活用を積極的に推進し、教育活動の充実を図る。
- ③ 公開授業や HP を活用し、学校の情報発信に努める。

【健康で安全な学校生活】

- ① 生命尊重や健康安全について、十分な配慮を行い、豊かな教育環境を創出する。
- ② ポストコロナに向け、教育活動を工夫していく。
- ③ 災害や不審者等の危機を回避する能力を育成する。

(2) 短期的目標と方策

【学力向上・授業力向上】

- ・学習指導要領の円滑な実施と教育課程の計画的実施を行う。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を意識し、インプット型からアウトプット型の授業へ。
- ・モノグサやロイロノート等のアプリを効果的に活用し、基礎・基本の定着や思考力を高め、楽しくわかる授業を行う。
- ・タブレットを活用した家庭学習や日々の振り返り学習を通して、学習内容の定着を図る。
- ・カリキュラムマネジメントを意識した学習活動を実施する。
- ・「見方・考え方」を重視した授業改善を進め、児童に確かな学力の向上を図る。
- ・読書旬間の際には、発達段階に応じた本を選び、読書の楽しさを味わわせる。
- ・図書館を使った調べる学習を実施していく。そのために普段の授業から調べる活動を行い、考えながら自分の意見をまとめられるようにする。
- ・外国語指導員を活用し、外国語担当教員を中心にして、外国語活動の充実を図る。
- ・ICT 機器の十分な活用を図り、児童が主体的に学ぶ授業を行う。
- ・学校支援指導員や SST、学習指導講師等の活用により個に応じた指導の充実を図る。
- ・校内研究を通して、学力向上への手立てを提案し、実践する。
- ・授業観察を年 3 回以上実施し、教員同士がお互いの授業を見合う相互授業観察を行うことで授業改善を図る。

- ・OJT研修や区小研、校外の研修などに積極的に参加し、授業力向上に励む。
- ・自力解決・体験的学習を積極的に行う。

【生活指導】

- ・全教職員共通理解のもと、学習や生活習慣の定着を図り、規範意識を育む、
- ・支援を必要とする児童を取り巻く児童に対する心の育成を強化し、いじめや差別のない学級・学年・学校づくりに努める。
- ・友達のよさを見付け、お互いに認め合う活動を重視して行う。
- ・児童一人一人が自尊感情を育めるよう、意図的な励ましの時間や、子供同士で互いのよさや成長を認め合う機会を設定する。
- ・目指す学級像を明確に示し、児童とともに学級目標をつくっていく。
- ・「中和学習スタンダード」を徹底し、学習に向かう姿を確立する。
- ・道徳・いじめに関する授業を計画的に実施し、児童の人権感覚を養う。
- ・現象面だけを捉えて指導するのではなく、日頃から児童一人一人に寄り添うことで児童の内面や背景まで理解した上で、個に応じた指導を心がける。
- ・一人に対応するのではなく、学年会などで困っていることや相談事を気軽に話せる雰囲気と場を設ける。
- ・学年や管理職との情報共有をきちんと行う。

【保護者や地域との連携】

- ・普段から連絡を密にするとともに、地域行事やPTA行事に積極的に参加し、コミュニケーションをとる機会を増やしていく。
- ・「見える対応、素早い対応、一歩先行く対応」を心がけ、保護者や地域からの要望や意見に誠意をもって対応する。そのための報告・連絡・相談を徹底し、組織で対応していく。
- ・学校だよりや学年だより、ホームページ等の内容を工夫し、児童の姿が見えるものにする。
- ・教室内や廊下等の掲示を工夫し、児童の学習活動の様子が見えるものにする。
- ・地域に関わる学習や地域人材を生かした授業を行い、児童の「生きる力」を育む。
- ・葛飾北斎、相撲、太鼓、職人の技などの体験学習を通して、伝統文化に触れる機会をもつ。

【サービスの厳正】

- ・教育公務員の職務上・身分上の義務を認識し、全体の奉仕者としての自覚を高める。
- ・身だしなみや言動に気を付け、教育公務員であるという自覚をもち、指導者としての気品を備える。また、来校者には誠意をもって接する。

学校と保護者や地域が連携し、「チーム中和」として、

子供たちのために協働していく学校を目指して！

同僚性を高めよう



- 忌憚なく話し合える場をつくろう。
- コミュニケーションをとり、相互理解に努めよう。
- お互いを非難するのではなく、批評し合おう。
- 互いの課題を把握し、助言し高め合う関係を！

レジリエンスを高めよう

- レジリエンスとは自発的治癒力を意味し、回復力、復元力などとも訳されます。

〈レジリエンスの高い人の特徴〉

- ・失敗を糧に成長できる。 ・落ち込みからの復活が早い。
- ・困難に対して「できる」と思い取り組める。 ・自分の強みと弱みを把握している。
- ・他人と自分を容易に比較しない。 等

- レジリエンスを鍛える

①感情をコントロールする。

- ・苦しいことがあったときに、そこから柔軟に回復するには「感情をコントロールする力」が大事です。

②自尊感情を高める

- ・自分の強みは何か、改めて考えてみましょう。同時に弱みを強みと捉えることも大事。

③自己効力感を高める

- ・成功体験を積み重ね、自分の成長を感じる。
(逆境を乗り越えた経験 乗り越えたことで得たスキル 上手くいったこと)
- ・成功体験をまねること(モデリング)で人の成功体験を自分の成長に生かす。